一年生

入部して

南部清子

クラブに入って二ヵ月経過した。未知のハンド・ボールと言う名にあこがれを持って、先輩の練習状態などを見て何か胸がすく、思いをし、分らぬまゝの最初の日の練習は、何か夢中で、先輩から肩が良いなどほめられると、嬉しかった。夏の合宿練習に参加し、朝[illegible]方がすずしくて気持ちよかったが、午後からの練習は太陽に照りつけられる下で走るので、これが大変で自然と[illegible]も出てぼやけて来る。その後、先輩に励ましがあり何とか元気づけられ練習したものだが、何といってものどが乾いてカラカラで、練習が早く終る事を何回望んだか知れない。「五分間休憩」という声がかかると、練習[illegible]そうな[illegible]一斉に水道に向ってかけだしたものだ。しかし二日三日と経つと[illegible]て、一人二人と[illegible]て、[illegible]練習させられることが[illegible]なくて残念だった。合宿解散となり先生の命令も、[illegible]先生が[illegible]。[illegible]練習が終り、運動場で輪になって[illegible]った時、なぜか涙が[illegible]かった。[illegible]三年生が引退した今日、一・二年生十人、少ない人数ではあるが、一致協力[illegible]ファイト[illegible]頑張って行こう。

◆

格言

◆

たいせつなことは、大志をいだき、そしてそれをなしとげる技能と忍耐をもつということである。その他はいずれも重要でない。
ゲーテ

忍耐は力の生んだ娘、強情は弱さの——言いかえれば、理性の弱さの生みだした娘。
エッシェンバッハ

何をいちばん愛しているかは、失った時にわかる。
俚諺

初恋とは、少量の愚かさと、ありあまる好奇心にすぎない。
ショウ

完